

国立市南部地域整備基本計画

はじめに

国立市は、東西に約2km、南北に約4kmの総面積8.15km²というコンパクトな街に7万人を超える人々が暮らしております。本計画で示す南部地域の範囲は国立市全域の約50%を占めています。南部地域は、国立市の前身である谷保村という国立発祥の地域であり、崖線に残る緑豊かな樹林やハケ下の豊富な湧水、多摩川・矢川などの自然的資源や、谷保天満宮・南養寺・城山などの後世に伝えていくべき歴史的資源が残り、国立の源とも言える貴重な地域となっております。

昭和59(1984)年

このような良好な発展と人口増加から南部地域のまちづくりを進めていくため、昭和59年8月に『国立市南部地域開発整備基本計画』を策定し、「南武線以北の良好な市街地にまさるとも劣らないまちづくり」を目標に、南部地域の都市基盤整備の実現に取り組んできました。しかしながら、計画策定から30年が経過し、まちづくりを取り巻く状況は大きく変化してきたことから、これまでの取り組みの成果や課題を踏まえるとともに、市民の新たなニーズや時代の背景を的確に反映していくため、『国立市南部地域整備基本計画』を策定いたしました。

本計画の南部地域における将来像は、富士見台地域の「緑豊かで良好な住環境を守り、地域をつなぐ国立の要となるまち」と崖線北側・南側地区の南部地域の「豊かな自然・歴史ある文化とともに発展するまち」で、その実現に向けては「総合的な土地利用の誘導」、「都市基盤の整備」、「良好な住環境の整備」の3つの柱を主な施策とし、関係機関等との連携を図りながら、計画期間である10年間において将来像を実現するために、それぞれのコンセプトに合った施策を具現化したアクションプランを作成し、市民の皆様のご協力のもと進めてまいりたいと考えております。

最後に、この計画を策定するにあたり、アンケート、討議会、検討会、説明会や意見募集にご協力をいただきました市民の皆様及び関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

平成26(2014)年

平成26年8月

国立市長 佐藤 一夫